

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年9月3日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4670600156号		
法人名	医療法人 昂和会		
事業所名	グループホーム 風の丘		
所在地	鹿児島県 阿久根市 赤瀬川 379番地 1 (電話) 0996-72-7023		
評価機関名	NPO法人 自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成21年8月20日	評価確定日	平成21年9月12日

【情報提供票より】 (平成21年7月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 10月 24日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 6人	非常勤 2人 常勤換算 7.4

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	12,600 円	その他の経費(月額)	330円
敷金	有 (円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (7月31日現在)

利用者人数	9名	男性 0名	女性 9名
要介護1	4名	要介護2	3名
要介護3	0名	要介護4	2名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均 85.2歳	最低 77歳	最高 95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	内山病院	橋口歯科医院
---------	------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、左は甌島、右は天草、眼下には東シナ海や阿久根大島が一望できる高台に位置している。入居者は、景観の素晴らしさを満喫しながら、ホーム周辺の散歩を日課としている。医療法人を母体として、敷地内の介護老人保健施設やデイサービスセンターでの夏祭り・敬老会等の行事参加や近隣の他施設との交流会も多く、入居者は歌や踊りを披露するなど、生き生きと生活を楽しんでいる。職員は研修の機会が多く、自己研鑽意欲も高い。入居者の尊厳を第一に考え、自由で、安らぎと喜びのある暮らしが支援できるよう、チームワークで取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	防災対策として夜間想定訓練を追加し、課題は改善している。地域との付き合いの中で訪問者が少ない件は、ボランティアの訪問や近所の住民との交流も増えて、改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は、評価の意義を職員に説明して、全職員で自己評価を実施し、自己の振り返りを行い、ケアの質の向上につなげている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定期的な会議が設定されており、入居者の状況や活動内容報告・市担当者からの情報提供・参加者の意見等を聞き、サービスの向上に活かすよう取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の面会時に声かけを行ったり、年4回の家族会では、担当職員が家族と個人面談をして、要望や意見を聞く工夫をし、運営に反映するよう取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域主催のいきいきサロンに参加したり、関連施設や周辺施設の夏祭りや敬老会等の行事に参加し一緒に楽しんでいる。また、看護学生の実習受け入れや、踊りのボランティア訪問があったり、近所の住民が魚や野菜を差し入れする等、地域との交流がなされている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	尊厳と権利を大切にしながら、地域や自然に触れ合う暮らしの中で、安心安全で安らぎと喜びのある暮らしを支援するという独自の理念を構築している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の朝礼時に理念を唱和し、理解を深めながら、日々のケアに反映するよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域主催のいきいきサロンに参加したり、介護老人保健施設やデイサービスでの敬老会・夏祭り等の行事に参加し楽しんでいる。看護学生の実習受け入れ・踊りのボランティアの訪問・近所の住民から魚や野菜の差し入れなどがあり、交流がみられる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は評価の意義を職員に説明し、全職員で自己評価に取り組んでいる。自己評価を行う事でケアの振り返りができ、質の向上につながった。前回の外部評価の改善項目についても、検討改善が図られている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の状況や活動内容報告・市担当者からの情報提供・参加者の意見を聞きサービスの向上に活かす取り組みをしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者とは、運営推進会議以外にも連絡を取り合い、入居者の状況について情報交換を行い連携を図り、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月ホーム便りを発行し、暮らしぶりや近況報告をしている。面会時には金銭出納帳の報告をし、家族のサインももらっている。遠方の家族とは電話で報告したり確認を求めている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に声かけを行ったり、年4回の家族会では家族と担当職員が個人面談をして、要望や意見を聞き運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者との馴染みの関係を重視し、職員の異動は最小限に抑えている。やむを得ず異動があった場合は、入居者や家族と信頼関係を築けるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の段階別研修と介護老人保健施設と合同の勉強会がそれぞれ月1回ずつあり、外部研修も交代で全員参加している。また自主研修で参加した分も伝達講習を行うなど、意欲的に取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北薩グループホーム連絡協議会に加入し、研修にも交代で参加している。近隣のグループホームとの交流を図り、質の向上を目指す取り組みを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望時に本人に来所してもらい、ホームの見学をしたり、場の雰囲気馴染めるよう配慮している。入居前には自宅や施設に職員が出向き、本人と面会し、親睦を深めながら安心して入居できるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者は人生の先輩であるということを職員は共有しており、園芸・調理・おやつ作りなど日常生活のあらゆる場面で、得意分野を発揮してもらいながら、一緒に過ごし、支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの情報や日々の生活の中で、表情から気持ちを察したり、希望を聞きながら本人の意向を重視した支援を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人家族の意向や要望を聞いてケアカンファレンスを持ち、職員の気づきや意見交換を行い、個別に応じた具体的な介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎に各担当で見直しを行い、モニタリング表で評価している。介護計画は6ヶ月毎に作成し、状態変化時は随時見直しを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族と話し合いながら、本人の意向にそって、通院の支援・買い物・外出・外泊等の支援を行うなど、柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者及び家族が希望するかかりつけ医での受診を支援している。協力医療機関との連携も確立され、往診・医療処置が受けられる体制にある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時や家族会の時、重度化した場合や終末期のあり方について、家族に意向を確認し、指針を作成し同意書をとっている。終末期には再度話し合いを持ち、家族の希望にそえるよう情報の共有化を図り、勉強会を行いながら支援する体制を作っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は個人情報の保護やプライバシーの確保に留意し、声かけや対応の仕方を職員に指導している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の過ごし方は本人の意向を重視し、起床や食事時間をずらしたり、散歩・外出等、本人のペースに合わせ柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は入居者の希望を聞いたり、季節の食材を取り入れた料理を提供している。買い物・調理・盛り付け・下膳・片付けなど、職員と一緒にしながら食事を楽しめるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決めているが、希望者はいつでも入浴できる体制をとっている。入浴回避の方は、誘い方を申し送ったり、清拭で対応する等の工夫をしながら、気持ちよく生活ができるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の生活歴や趣味を考慮しながら、園芸作業や調理・買い物・散歩・生き生きサロンへの参加・関連施設の行事で歌や踊りを披露するなど、一人ひとりの力を発揮する場面を多く作り支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	朝夕のホーム周辺の散歩や週2～3回の買い物・手作り弁当持参での花見など、外出の機会を多く作り支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守りと気配りを重視し、日中は玄関の鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を実施し、夜間想定訓練も行っている。近隣の方にも協力を得るよう声かけを行っている。災害時の備蓄も準備している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分管理はチェック表に記入している。食事の摂取状況に合わせて食事形態も工夫している。法人内の栄養士に献立をチェックしてもらい、栄養バランスに配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前の花壇には季節の花が植えられ、テラスにはトマトやへちまが植えられた菜園もある。室内は天井が高く明るい、すだれやロールスクリーンで室温を調節しながら快適な環境を心がけている。室内はソファが置かれ、自由にくつろげるよう配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には花や観葉植物・家族の写真・カレンダー・時計・キャリアカー等が持ち込まれ、本人が安心して居心地良く過ごせるよう工夫している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。